

平成30年度学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

平成30年度 of 取組の概要

学校名	栗原市立一迫小学校	主な取組教科	算数科	
研究主題	思考を深め、自己解決に向かう児童の育成 －算数科における児童が主体的に学び合う授業づくりを通して－		研究年次	2 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成果	評価の根拠
導入では問題場面の設定を工夫し、興味・関心や疑問などを引き出した。展開では学習の目的や方向性を明確にし、意図的に問い返した。	児童が学習に意欲的に取り組む姿が各学級で見られた。また、児童に意図的に問い返すことで本時の目標に迫ることができた。	学力検査等、授業での児童の様子、算数ノート、教員による校内での話し合い、公開時の分科会、児童対象の算数科意識調査の変容から。
中学校区で、共通の授業の流れに沿った算数科の授業づくりを実践した。	小・中学校の接続に加えて校内の学年部間の接続についても意識して取り組めた。特に、学習課題の設定や振り返りを1単位時間内に位置付けることを大切にされた指導が浸透してきた。	児童対象の算数科意識調査の変容、教員対象の意識調査の変容、授業での児童の様子、算数ノートから。
学力検査等の結果分析をもとに、業前や放課後に補充的な学習と発展的な学習の場を設定し校内の体制を整えて指導にあたった。	結果分析をもとに指導したことで既習の内容が以前よりも理解してできるようになり、新しく学習する内容につながった。	児童対象の算数科意識調査の変容、レディネステスト、単元テスト、児童の取組状況から。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
授業づくりについて、問題場面を工夫し児童の発言を生かそうとしたり考えを見取ろうとしたりしたことで、導入に多くの時間を掛け、展開や終末の時間が少なくなってしまうことが多かった。	単元を通して児童が学び合うことに重点をおく時間はどこかを見極めて単元全体の指導を計画する必要がある。また、本時のねらいと目標、評価を踏まえて発問を精選し、45分で成立する授業を目指す。
学力について、領域別では「数と計算」、観点別では「数量や図形についての技能」が全国平均と比較すると低い学年が多く、この傾向は数年続いている。	前学年までの学習についての復習を業前の時間に週2回設定してきたが、家庭学習習慣を低学年から確実に身に付けさせるように指導するとともに、よい指導の例などを参考に授業改善に努める。

◆栗原市立一迫小学校 研究関連 URL : <http://ichihasama-els.main.jp/>